

## 入選

### つなげるありがとうの輪

鹿児島県 坂元中学校 2年 中野 怜奈

「おねえちゃん急いで。」

暑い中、坂の上から弟の声が響く。なにごとかと急いで登ると、家の前で曾祖父が倒れていた。曾祖父は足を悪くし、回復するまでは私の家に滞在していたのだ。しかし、昨日も元気だった曾祖父はどうしたのだろうか。夏休みが始まろうとしていて、頭の中では晴れ空だったのに、一瞬で曇り空に変わってしまった。

「ひいおじいちゃん。」

曾祖父は、痛いとおそえていた。本当に驚いて、言葉が出なくなってしまった。どうにかしないといけませんが、その場にいるのは私と弟と弟の友だちの数人だった。最年長である私が助けないといけなく、しかし動けない。それがくやしかった。そんなとき、弟たちが動き始めた。

「僕のお母さん呼んでくる。」

「そこの家の人を呼んでくるよ。」

「お母さんに電話する。」

本当にかっこよかった。こんなに小さい子たちにこのような力があるとは思わなかった。私は曾祖父に声をかけ続けた。すぐに弟たちが呼びに行ってくれた近所の方々が駆けつけてくれた。ななめ向かいの方は、救急車を呼び、向かいの方は、曾祖父の状態を聞いている。私が何もできなかった間に、みんなが助けようという気持ちで一生懸命動いていた。私も動かないと、と家族に電話をかけた。少したってから救急車が家の前に来た。曾祖父の健康状態をできるだけ話し、祖母の勤めている病院へ救急車が向かった。サイレンが遠ざかっていく。私が立ちすくんでいると、近所のおばあちゃんが、

「大丈夫だよ。大丈夫。大丈夫。」

背中をさすってくれた。なにもできなかった情けなさや不安、人々の温かさ、やさしさに、自然と涙が出てきた。

曾祖父は大事に至らなかったが、手術をし、しばらく入院した。私は、大好きな曾祖父を助けてくれた方々にありがとうを伝えられていないことを後悔していた。だから今、あいさつで恩返しをしている。目を合わせ、大きな声でありがとうの思いを込め、声を出す。

このような出来事があり、大事なことをたくさん学んだ。協力することの大切さ、助けようという勇気、誰にでもやさしくする心、そしてありがとうを伝える。たくさんの親切で多くのことを学ぶことができた。

そして中学二年生となった今、私は勇気を出すことができるようになった。「荷物を持ちましょうか。」「大丈夫ですか。」「どうぞ、座ってください。」

みんな、笑顔で言ってくれる。「ありがとう。」と。

親切は、つながっていく。ありがとうの輪で。だから私もつなげていこう。ありがとうの輪を。